

riverbank report

リバーバンク

R

リポート

2020 Spring

第
29
号



特集・水と命と平和

—中村哲氏追悼、そして大河津分水通水100年へ—

満々と水を湛える信濃川

定価：本体300円(内税)

「水と命と平和」

治水の「治」の文字には、治めるだけでなく、癒すという意味もあります。硬い土に水を導き、クワを入れて柔らかくしている象形なのです。

大地を潤すことが命を支え、人の心をやわらげ、平和と安らぎを生み出してくれる。

アフガンの乾いた戦場に水路を築き続け、凶弾に倒れた中村哲氏の願いも「治める」ことではなく、人々が柔らかな心を持てるこことだったに違ひありません。

百年前、大河津に水路を切り開いた技師・青山士はその後、軍部からのパナマ運河攻撃への協力要請を断っています。人類の財産を破壊することへの抵抗でした。その平和への思いも中村氏の願いに通じるものです。

命を育み、心を潤す水も、時に荒れ狂い人の命を奪い去ります。人も道を誤れば、無謀な殺戮へと突き進みます。水鏡は人の営みを映すのでしょうか。先人の思いをもう一度かみしめたいと思います。

写真 II 平成21(2009)年10月31日の夕刻、信濃川の県境から河口まで150km、大河の流れに添い花火の輝きがリレーされた。津南町の若者の呼びかけに100人以上のボランティアが応えた。(木村信男氏撮影)

目次

- 今上天皇と「水」とのかかわり・4
- 平和への思いを胸に刻む・5
- アフガニスタン 干ばつの大地に用水路を拓く・6
- その精神を胸に刻む リバーバンク 理事長 新原 晃一・8
- しなの川音楽祭生誕25周年&リバーバンク発足5周年記念講演会「思い出アルバム」・9
- 信じて生きる山の民 「絶筆」 医師 中村 哲・10
- 先生と犠牲者の御靈に事業の継続を誓います・12
- ペシャワール会 会長 村上 優
- 飛び越えてやつてきた異星人中村哲の根っこに触れる・16
- 中村哲医師を偲んで・18
- 長岡市国際交流センター「地球広場」 センター長 羽賀 友信
- 小さな巨人 リバーバンク 理事 金子 博・19
- 水による地域発展——平和の拠点と戦争の拠点・20
- 新潟国際情報大学 国際学部 教授 越智 敏夫
- 大河津分水路通水100年に向けて・22
- 国土交通省北陸整備局 河川部長 田部 成幸
- 豊かな情緒と鮮明な想像力が未来を描く
- 新潟大学 災害・復興科学研究所 准教授 安田 浩保・24
- 心に平和の砦を築く 長岡戦災資料館 顧問 古田島吉輝・28
- 「研究室だより」 長岡技術科学大学 教授・学長補佐 山口 隆司・31

—「しなの川音楽祭」生誕25周年 & 「リバーパンク」発足5周年記念—
川・水・食料…そして
平利
医師・中村哲氏講演会 in 長岡

講師：中村 哲氏
PMS(ピースジャパン・メディカル・サービス)総院長
ペシャワール会現地代表
日時：平成26年8月27日(土)
会場：ホテルニューオータニ長岡 NCホール
賛同会
日時：平成26年8月27日 18時～20時
会場：ホテルニューオータニ長岡 白鳥の巣
会費：7,000円



現場測量

中村哲氏



“100の診療所より1本の用水路を”と聴診器を重機にかえ命の源の水に取りくむ中村医師（2011年1月 カマヤ）



炎天下の砂漠で続行されたガンベリ砂漠横断水路作業（2009年7月29日）



通水約4年後 ガンベリ砂漠横断水路（2013年5月4日）

用。用水路は絶えず維持・保全が必要であり、コンクリート三面掩蔽水路だと、土地の人々にとつてその修復は、技術的・財政的にみて困難を伴うことになる。アフガン人は、泥で作る日干しレンガと石で家を築く。生まれつき石積みの技術を持っていて、子供も手伝う。彼らにとって、石を使つた堰や蛇籠であれば、その修復・保全は難しいことではない。これに柳枝工を加えるとさらに強い水路になる。

用水路事業の中で、最大の貢献をしたのが、取水技術である。年々進行する気候変動は、洪水と渴水の極端な同居となり、アフガニスタンの従来の方式では取

水が難しくなっていた。これを解決したのが、斜め堰、堰板方式取水門、石出し水制といった日本の伝統的な治水技術で、今後各地で画期的な農村復興をもたらす可能性がある。

私は、用水路を完工し、15万人の生存の基盤を確保し、難民たちの帰農を促進した。現在、既存用水路の取水方法を上記のPMS方式に改修中である。また、イスラム教徒である農民たちの、精神の拠り所としての寺院モスクとマドラサを建設した。用水路の最終地点であるガンベリ砂漠に「自立定着村」を造るため開墾中である。ここには、用水路の建設現場で治水技術を習得した作業員＝農

通水9年のスランプール平野
(2015年7月21日)

アフガニスタン 干ばつの大地に用水路を拓く アフガンの診療活動から「復興のモデル建設」へ

PMS(ピースジャパン・メディカル・サービス) 総院長・ペルシャワール会・現地代表 中村 哲



1 984年、パキスタン・ペシャワールでハンセン病診療を柱としつつ、一つの基地病院と、パキスタン・アフガニスタンに跨り、山岳医療過疎地に、多い時には10か所の診療所を開設し、活動してきた。しかし2001年以降、欧米軍の診療地域への侵攻による「反テロ戦争」による治安悪化で、診療活動が妨げられ、現在機能しているのは、1か所の診療所のみである。さらに2000年に顕在化した大旱魃による渴水、砂漠化がこれに追い打ちをかけた。旱魃で診療所のある村がまるごと難民化することも

0年に顕在化した大旱魃による渴水、砂漠化がこれに追い打ちをかけた。旱魃で診療所のある村がまるごと難民化することも

あった。診療所があつても水がない。人の生存そのものが不可能な事態にまで追い詰められていたのである。
飢えと渴きは薬では治せない。私たちは1600本の井戸を掘り、2003年からは農業用水路の建設を始めた。その全長約27kmの用水路によって復旧した田畠は、3000ヘクタールを超えて、およそ15万人の生存を確保することができた。工事には連日500人ほどの作業員が従事したので、12年間で、延べ100万人以上の雇用が発生したことになる。用水路工事がなければ難民になるか、軍閥や外國軍の傭兵になるしかないのである。用水路工事が巧まずして地域の治安安定に寄与したのである。総工費は約15億円。すべてペシャワール会会員の会費と支援者の寄付による。

用水路事業は、主に日本の伝統工法を参考とした。「斜め堰」「蛇籠工」や「柳枝工」という江戸期に完成した工法を採用する。

民の家族が、将来入植し農業をやりつづ用水路の修復・保全を行うことが期待されている。こうして私たちは、アフガニスタンの一地域ではあるが、その復興モデルを提示できたのではないかと考えている。（2016年）

【中村哲氏著書等】
・『医者、用水路を拓く』 石風社 1944円
・『アフガンの大地から世界の虚構に挑む 天、共に在り』 NHK出版 1728円
・『アフガニスタン30年の闘い』 アフガニスタン30年の闘い
・『人は愛するに足り、真心は信するに足る』 岩波書店 2160円

・アフガンとの約束 聞き手・澤地久枝
・DVD『アフガニスタン』 石風社 2700円
・干ばつの大地に用水路を拓く
▽アフガニスタン在留
(Rリポート14号再掲載)

アフガニスタンでの医療活動に携わる中で、命の原点は「水」であることを認識され大プロジェクトに取り組まれた中村哲氏の哲学・行動力は「世界最高の平和プロジェクト」のモデルです。「今だけ、金だけ、自分だけ」の世の中に、警鐘を乱打することなく地道に、着実に、民間の「力」のみで推進するアフガニスタンのロールモデルです。

——編集人 村



中村 哲さん 長岡講演「思い出アルバム」



その精神を心に刻む

平成28（2016）年の講演会支援者へRBからの礼状

謹啓 秋晴れの高い空の下、赤とんぼが飛び交う情景が少し戻ってきたように感じる今日この頃、貴台におかれましては、益々ご清祥の御事とお慶び申し上げます。

さて、過日8月27日㈯の「川・水・食料……そして平和」医師・中村哲氏講演会in長岡開催に際しまして、多大なご協力を賜りましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。

お蔭様で、講演会には320名のご聴講を賜りました。戦乱と旱魃に明け暮れるアフガンの厳しい現実の中で、30年に渡り奮闘してこられた中村氏の迫力あるお話に、一様に引き込まれ、心揺さぶられる数時間を過ごされた皆様から、会場出口で著書のご購入やらご芳志を頂戴し、スタッフ一同感激の極みでございました。中村氏は前泊をされ、講演が始まる前に大河津分水を視察、アフガンに建設している用水路とはけた違ひの巨大さに驚かれたる同時に、相当に参考になったご様子で、「また来たいと思います」と言われました。

講演後も、他の会場では決して出席されない懇親会にご出席頂き、137名の参加者と親しくお話をされていました。講演会では、長岡技術科学大学に留学中のアフガニスタン出身のRezaさん及びJICAの羽賀友信さんと、質問時間の最後に鼎談を行いましたが、懇親会では、中村氏の再従兄弟に当たる、当機構の東京事業部長・小田陽子さんとの懐かしい対面もあり、新幹線に乗られる時間ぎりぎりまでお過ごし頂きました。

「命の水」があれば多くの人を救えると、並外れた強い意志で、荒廃した大地に用水路を建設し、緑の大地を甦らせたその業績に敬意を表しながら、私たちも、たとえわずかでもご協力をしたいと願い、多くの皆様に直接ご協賛を仰ぐと同時に、講演チケット、懇親会チケット、ハンカチ等の販売・募金箱設置に務めましたところ、総額950,734円をペシャワール会に寄附することが出来ました。深く感謝申し上げる次第でございます。

中村氏のご講演を一つの貴重なご縁と感じ、これからも「川・水・食料……そして平和」の精神を心に刻んで参りたいと覚悟致しております。何卒、今後とも宜しくご指導ご支援賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

末筆ながら、貴台の益々のご発展をお祈りいたします。

平成28（2016）年10月27日

一般社団法人地域ルネッサンス創造機構 シンクタン・ザ・リバーバンク

理事長 新原 皓一（公印略）



信じて生きる山の民

（中村哲医師 絶筆）

――アフガニスタンは何を啓示するのか

PMS（平和医療団・日本）総院長／ペシャワール会現地代表 中村 哲

中村医師は二〇〇九年より年に四回、西日本新聞に「アフガンの地で 中村医師からの報告」と題した文章を寄稿していました。絶筆となつた十二月二日朝刊掲載分をここに転載します。

◆「緑の大地計画」は最終段階へ

我々の「緑の大地計画」はアフガニスタン東部の中心地・ジャララバード北部農村を潤し、二〇二〇年、その最終段階に入る。大部分がヒンズークシユ山脈を源流とするクナール河流域で、村落は大小の険峻な峡谷に散在する。辺鄙で孤立した村も少なくない。

比較的大きな半平野部は人口が多く、公的事業も行われるが、小さな村はしばしば

関心をひかず、昔と変わらぬ生活を送つていることが少なくない。我々の灌漑計画も

そうで、「経済効果」を考えて後回しにしてきた村もある。こうした村は旧来の文化風習を堅持する傾向が強く、過激な宗教主義の温床ともなる。当然、治安当局が警戒し、外国人はもちろん、政府関係者でさえも恐れて近寄らない。

◆忠誠集める英雄

ゴレーケはそうした村の一つで、人口約五千人、耕地面積は二〇〇ヘクタールに満たない。これまで、日本の非政府組織（NGO）である日本国際ボランティアセンターが診療所を運営したことがあるだけで、まともな事業は行われたことがなかった。PMS（平和医療団・日本）としては、計画

の完成に当たり、このような例を拾い上げ、計画地域全体に恩恵を行き渡らせる方針を立てている。

同村はジャララバード市内から半日、クナール河対岸のダラエヌールから筏で渡るか、我々が三年前から工事中の村から遡行する。周辺と交流の少ない村で、地域では特異な存在だ。圧倒的多数のパシュトゥン民族の中には、唯一パシャイ族の一支族で構成され、家父長的な封建秩序の下にある。



ゴレーケ村の指導者カ力・マリク・ジャンダール氏（左から2人目）らと談笑する中村医師（右から2人目）。右端はジア院長補佐（2019年10月16日）

度重なる鉄砲水にも脅かされ、耕地は荒れ放題である。この際、一挙に工事を進め、両岸の問題を解決しようとした。

◆「諸君の誠実を信じます」

最初に通されたのは村のゲストハウスで、各家長約二〇〇名が集まつて我々を歓待した。他で見かける山の集落とさして変わらないが、貧困にもかかわらず、ござっぱりしていて、惨めな様子は少しも感ぜられなかつた。

ジャンダールは年齢八〇歳、村を代表して応対した。彼と対面するのは初めてで、厳めしい偉丈夫を想像していたが、意外に小柄で人懐っこく、温厚な紳士だ。威あつて猛からず、周囲の者を目配せ一つで動かす。PMSの仕事はよく知っていた。同村上下流は、既に計画完了間際で、ここだけが残されていたからである。

「水や収穫のことなど、困ったことはありますか？」

「専門家の諸君にお任せします。諸君の誠実を信じます。お迎えできただけで、村はうれしいのです」

こんな言葉はめつたに聞けない。彼らは



ゴレーケ村の予備調査のための交渉。中村医師ら（右列）が村人にクナール川でのPMSの活動の経緯と共に、洪水被害を減らし安定した灌漑ができるようにするための調査であることを説明した（2019年10月16日）

神と人を信じることでしか、この厳しい世界を生きられないのだ。かつて一般的であった倫理観の神髄を懷かしく聞き、対照的な都市部の民心の変化を思い浮かべていた。

約十八年前（〇一年）の軍事介入とその後の近代化は、結果が明らかになり始めた。

アフガン人の中にさえ、農村部の後進性を笑い、忠誠だの信義だのは時代遅れとする風潮が台頭している。

近代化と民主化はしばしば同義である。

巨大都市カブールでは、上流層の間で東京やロンドンとさして変わらぬファッショングが流行する。見たこともない交通ラッシュ、霞のように街路を覆う排ガス。人権は叫ばれても、街路にうずくまる行き倒れや流民たちへの温かい視線は薄れた。泡立つカブール河の汚濁はもはや河とは言えず、两岸はプラスチックごみが堆積する。

国土をかえりみぬ無責任な主張、華やかな消費生活への憧れ、終わりのない内戦、襲いかかる温暖化による干ばつ——終末的な世相の中で、アフガニスタンは何を啓示するのか。

見捨てられた小世界で心温まる絆を見いだす意味を問い合わせ、近代化のさらに彼方に見つめる。



アフガン難民キャンプで診療を行う中村医師（1980年代）

計画を担うためです。ペシャワール会は、先生の医療活動を支えるために、その前年に七〇〇名の仲間が集い発足しました。それから三十六年の月日が経ちます。

中村先生。幾多の困難がありましたね。当時のペシャワールには三〇〇万人を超える難民が押し寄せていました。先生は、その苦難について私たちに語ることは少なく、人の命の不平等や世の中の不条理なことについては、心の中に押し込めて、いつも前を向いて淡々と歩まれました。

ミッション病院を出て一九八六年には、JAMS (Japan-Afghan Medical Services)

を創られ、それを核にPMS基地病院を創られました。その前には、アフガン東部の、誰も手を差し伸べることのない山岳最深部のダラエヌール、ダラエピーチ、ワマに診療所を作られました。

二〇〇一年の9・11事件後の米軍によるアフガン空爆の時には、飢えや寒さで餓死寸前の二〇万人以上の人々に小麦粉や食料油も届け、首都のカブールに臨時診療所を作られました。

そういう戦乱がつづく中で、二〇〇〇年からは、追い討ちをかけるように大干ばつがおこりました。中村先生が井戸を掘ると水路を造ると言われた時には、そんなことができるのかと不安がつのりました。先生は、それが人々の命を助けるために必要だからという理由を挙げられましたね。人を理解する深い洞察力を源泉として、分かりやすい言葉でいつも語られました。そしてそれを黙々と実践してゆかれ、井戸を掘り、用水路や堰を造り、一六、五〇〇ヘクタールの大地を緑に甦らせました。

でも先生は、そんな大きな仕事を成し遂げながら、おっしゃることは、とても平易なことでした。人の幸せとは、「三度のご飯が食べられて、家族がいっしょに穏やかに暮らすことだ」と。

中村先生。先生が筑後川の山田堰から学

十二月四日（水）、中村哲医師が、いつものようにジャララバードの宿舎を出て作業現場に向かう途中何者かに銃撃され、病院に移送された後、亡くなりました。享年七三歳。また、同乗していたドライバーのザイヌッラー・モーサム (Zainullah Musam) さんと四人の護衛の方々も殉職されました。

中村医師を初め皆様のご冥福を祈るとともに、ここに追悼の意を表し「号外」を発行致します。

中村先生の絶筆となつた「信じて生きる山の民」（西日本新聞、十二月二日掲載）を10・11頁に転載しております。

先生と犠牲者の御靈に事業の継続を誓います

—中村哲医師告別式での弔辞—

ペシャワール会会長・葬儀委員長 村上 優

ア先生は抱き上げて、嬉しそうに、また親しげに接しながら、ジャララバードのスタッフハウスで中村先生と同居していた時に孫の話がよく出ていたことなど、和やかで家庭思いな中村先生の一面を披露していました。その後は中村先生の前で皆さまで何度も写真を撮り、またこれから協働を約束しました。

告別式には全国から多数の方に参列いただき、ありがとうございました。事業継続を皆様の前で誓うことができました。

中村先生。先生がヒンズークシユ山脈のティリチミールに登頂された翌年の一九七九年、トレッキングに誘つていただきました。山の中で満天の星を見ながら、命について語り明かしたのが長い交誼の始まりでした。そのとき先生は、命の不平等について強い口調で語られました。山岳部にすむ貧しい人たちが簡単な病気で亡くなつていくのを見て、手を差し伸べないことの不条理さを語っておられました。

その後先生は、一九八四年五月にペシャワール・ミッション病院に赴任されました。パキスタン北西辺境州でのハンセン病根絶

するなど考へもしませんでした。今の私には、先生の死を受け入れる余裕はありません。いくら力を振り絞っても、押し寄せる悲しみに圧倒されるばかりです。ですがペシャワール会の会員を代表して言葉を述べよど多くの人々が私を後押ししています。中村先生、力をお与えください。

追悼の辞



ダラエピーチ診療所の式典にて祈りを捧げる中村医師と職員達（2003年5月27日）



誠実な人柄を見込まれ、中村医師のドライバーを務めたザイヌッラーさん（左）。中村医師を父親のように慕っていた（2019年4月27日）

る、が、それを含めて共に生きている」と話されました。先生は、この三五年間、アフガニスタンや日本の膨大な人々のこころの支えとして、実のある事業を完成させて来られました。そういう中で凶弾に倒れられ、尊い犠牲者になられました。

中村先生だけでなくザイヌッラーさんも死去されました。中村先生付きのドライバーで、行動をいつも共にしていましたから、現場では右腕のような存在でした。警備の方々も亡くなられて大きな悲しみに包まれています。逝去されたすべての方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

先生は、誰も彼も分け隔てなく、丸腰で歩まれました。これも天の思し召しなのでしょか。先生の尊い犠牲は私たちに前を向いて進めと力をこめて後押しをしています。

言葉を失って悲しみや喪失感などを超えて、押しよせる記憶があります。先生が書かれたこと、話されたこと、言葉を交わしたこと、そしてペシャワールやアフガニスタンで共に体験したこと、その昔ヒンズークシユ山脈の麓を旅したことが脳裡を駆け巡ります。支援していただいた皆様もそれぞの「中村哲医師」との想いを共にしていただけると思います。中村先生を介してペシャワール会としてつながった人の輪があり、会員や支援者の皆様がおられます。

私たちも先生の御靈に誓います。

第一に、ペシャワール会は中村哲先生の意志を守り事業継続に全力を挙げます。遺志ではなく、今も私たちのこころの中で生きておられる中村哲先生の意志として。

第二に、これまで中村哲先生がいつもされていましたように、遠い先を見つつ、決して後ろを向かず前を向いて歩みます。様々な困難を超えてこられた中村先生は、今でも私のこころの中で語りかけてくださいます。その声と語り合いながら、会員や支援者の皆様と共に、アフガニスタンの人々、平和を望む世界の人々と事業の支援を続けます。

これから中村先生が目の前におられない



ミラーン堰周辺にて職員集合。前列中央が中村医師（2016年3月31日）

二〇一九年十二月十一日

中で、どのようにPMSの事業を維持できるか、不安ではあります。支援してくださる人々と共に歩んでまいります。

私は四五年前に中村哲という人に出会いました。中村哲という人が人生の横にいたことが、私の、そして多くの人々の人生の最大の幸いだったと思っています。出会いが人を変える、その出会いを選択するかどうかは私たち一人一人の手にあると感じています。

これまでのお導き、ありがとうございます。

した。

飛び超えてやつてきた異星人、中村哲の根っこに触れる

リバーバンク・パートナー、歌手 小田 陽子



「タ リバンでもアメリカでも、命を救うためならだれとでも手を組む」
印象的な言葉を残して逝ってしまった中村哲さん。（以下「哲さん」と記します）そんな哲さんにリバーバンクでの講演依頼の手紙を書いたのは2015年3月のことでした。

哲さんの偉業はすでに皆さん周知のことと思います。1600本の井戸と用水路、そのほかあまたの「命の元」を生み出しました。こんな偉人がまさか遠縁とはいえ親戚にいたとは！
それを知ったのは2001年のこと。それまで私は中村哲という並外れたアフガニスタンへの貢献者に感銘を受けた一市民に過ぎませんでした。ブッシュ政権が9・11に絡んでアフガニスタンに空爆を開始したとき、「どれほど中村哲さんは怒っているだろうか」とホームページに書いたのです。すると知人から「あなたの伯母様の自慢の甥子さんでしたもの

ね」とメールをもらつたのです。すでに伯母は亡くなつていました。慌ててお葬式の写真を確かめると、そこに確かに中村哲の名で供花があつたのです。そのときは誇らしい気持ちでいっぱいになつたのです。伯母は哲さんを「哲つちゃん」と呼んでたいそう可愛がりアフガニスタンに旅立つときには必ず見送りに行ってましたこと。ここでは遠い親戚として、哲さんの根っこの一端をご紹介します。

その伯母のお葬式には中村一族が大勢見えていました。中村一家は、福岡の港湾労働者（いわゆる沖仲仕）の元締めであつた玉井組の後継です。今にして思えばなんとも言えない迫力を感じた皆さんでした。豪放磊落、何しろよく飲み、義理人情に篤く、弱きを助け強気を挫く！任侠の宴会のようなお清めの場でした。この度胸千両を思わせる気質は正しく中村哲さんのDNAそのものと思われます。

また、伯母の兄が作家の火野葦平です。



中村哲さんは、「ピース愛煙家」。



中村哲さんと私

葦平の父であり哲さんの祖父が这一族のDNA産みの親、玉井組一家の一代目、玉井金五郎です。気性の荒さといい体型といい哲さんは一番良く似ているといわれています。その凜々しい侠気に満ちた姿が何度か国会で見られました。印象的なのは2001年、衆議院テロ対策特別委員会の参考人質疑でした。名だたる軍事アナリストなどお歴々がズラりお揃いの中、あの有名な発言が飛び出しました。

「自衛隊派遣は有害無益でござります」「失礼ですけれども、国会議員の先生方以上に現地の庶民のほうが冷静に事態

を判断しております」
「空爆はテロリズムと同じレベルの報復行為ではないかと」

最初はにやにや嘲笑していた議員さんたちでしたが、この発言には野次が飛び、ついには発言を取り消せとまで言われました。決定的に日本政府を敵に回したのですからそれこそ度胸千両ものです。

日本政府はこの法案で現地に医官や歯科医師、看護士などを派遣しようとしたようです。それは効果があるかと聞かれ、「どうぞ笑つたり怒つたりなさらないでください。医者の立場から申しますと、言葉がわからない、何が危険かわからない、それから、どういうことでこの人たちが怒るのかわからぬい、どういうことが悲しいのか、どういうことが嬉しいのか、という中で医療行為は成り立ちません」とはつきり進言したのです。もっともなことです。そして現地には1600人もの失業

の思いは、「自分が置かれた場所で、ひとつのことにも最善を尽くす」とことと説きます。一隅とはみんなが気づいていないほんの片隅のこと。本当は直視しないといけないにもかかわらず、目をそむけているところ。そこに哲さんは希望の灯を当てました。

「誰も行かぬから、我々がゆく。誰もしないから我々がする」と言って。このように哲さんはクリスチヤンですが仏教の素養も兼ね、イスラム教も尊重しました。宗教も国境も利害も感情もすべて「超える」のです。裏切られても裏切らない不思議な異星人。あらゆるものを超えて生きました。

今年2月、タリバンが政府側の後ろ

盾・米国と和平合意に署名しました。しかし各国の軍拡が進むなか、哲さんはどう見下ろしているでしょう。

「平和には戦争以上の忍耐と努力が必要」 中村 哲

△小田陽子（おだ・ようこ） 大阪生まれ、南米チリ経由の東京育ち。デビューはワインのCMでキングレコードから。他にさきがけて発売した「百万本のバラ」は独特。その原曲を求めてラトビア共和国に取材、原詩に沿つた日本語訳をつけて新たにCD化。「マーラが与えた人生」のタイトルで、大師・最澄の言葉です。哲さん

哲さんの座右の銘は「照一隅」（一隅を照らす）天台宗の伝教大師・最澄の言葉です。哲さん

哲さんの叔父にあたり我が家にも時々訪れたようです。戦争作家とも呼ばれた葦平でしたから、平和を深く掘り下げる哲さんは長い間葦平とは距離をとつていまし。しかし、葦平が敗戦を境に長く悩み続け、自らの戦争責任を問うた挙句の自死はやがて、哲さんの胸に刺さります。アフガニスタンで武力によって心が壊されていく人々の現状に重なつたといいます。



熱心に聞き入る会場
(平成28年8月27日 ホテルニューオータニ長岡)

中村哲医師を偲んで

長岡市国際交流センター「地球広場」センター長 羽賀 友信

中村哲医師を偲んで

2 016年8月27日、長岡市

で中村哲医師（以下、先生）

からご講演いただきました。2年

がかりの招へいとなりましたが、活動に興味を持つている人が大勢聴講してくださいり、大盛況だったことを覚えています。

アフガンに本当に必要なもの

医療の専門家としてペシャワール（パキスタン）に赴任され、そこで触れたアフガン難民の状況に興味を持ち、アフガニスタンに赴



中村哲医師と大川津分水可動堰にて

いた話をしてくれました。現況を理解するほど、本当に必要なのは医療ではなく、また教育でもなく、

「水」と「食料」であることに思

い至り、井戸と運河を掘ることを決意されたそうです。元々、アフガニスタンは降雨量が少ない地域であり、雪解け水をためて、その水で耕作をする生活をしていました。しかし、近年の温暖化により水不足となり、耕作地が砂漠と化し、集落がすごい数で消滅しました。食べられなくなつた人たちがリクルートされ、過激な戦士に変わつてしまふ結果、内戦が激しくなり、米軍との戦いも激化していきました。戦争の問題の根っこも「水」と「食料」なのです。

先生の優しさを感じたのは、思「先生が見たアフガン／アフガン流の教育」
想的なグループとして「タリバン」を見ずに、スリラン地方の農民として見ていました。タリバンは元々は村を守る自衛集団としての民兵組織で、険しい谷の崖に張り付くようにして過酷な生活をしている人たちだと言つていました。識字率が低く、読み書きのできない人も多いけれども、彼らの楽しみの一つに歌垣があり、詩を作り交換しながらお茶を飲むことが大きな楽しみだということを教えてくれました。

また、彼らが近代教育に反対するのは、子どもたちが都会に憧れ、集落を捨て出て行つてしまふ問題があるからです。むしろ、モスクをつくり、そこに併設されたマドローサ（学校）でイスラム教と読み書きを学ぶことの方が住民に寄り添つた考え方なのだと言つていました。先生はその通りにモスクをつくり、マドローサをつくり、子どもたちの環境を整えたのです。

大河津分水と中村哲医師

講演に先立つて、先生の参考になればと思い、大河津分水路を案内させていただきました。先生が

アフガニスタンで手本とされてい

る井堰が、福岡県朝倉市の山田堰

だと聞いていたので、新潟もかつて水害に見舞われ、治水が大きなテーマだったことを説明しました。

バナマ運河の技術を用い、淀川放水路（大阪）、荒川放水路（東京）に続く、大河津分水路の歴史を説明しました。先生は、アフガンが平和を取り戻すには、武力ではなく水と食料が得られる「国際協力」という平和的手段だと強調されていました。大河津分水路は巨大な工事ですが、将来的に参考になる考え方があたくさんある、と笑顔で話しておられました。「また訪ねてきますので、よろしく」と言われた言葉が今でも心に残っています。

小さな巨人

リバーバンク 理事 金子 博

「『故・中村哲さん』とは、どんな方ですか？」と問われれば、「小さな巨人」という言葉が頭に浮かびます。

「平和・軍縮問題に関心を持っている、農業・食糧問題に関心を持っている、水・自然環境に関心を持っているという人（小生も含めて）は星の数ほどいます。ですが、故・中村さんの生き様を知り、足元にも及ばぬ存在であること」を自覚させられました。

平成28年8月に開催された「信濃川音楽祭 生誕25周年＆リバーバンク発足5周年記念『川・水・食糧』そして平和医師中村哲氏講演会in長岡」の実行委員会にお誘い頂きました。実行委員会が開催される度に、中村さん等のアフガンでの活動を紹介したDVDが放映されました。ハンセン病の治療医として赴いた中村さんが現地で患者や人々に向き合う中で、生きるためは水・食糧こそ必要と決意し、自らが先頭に立つて、手掘りの井戸を掘り（1千数100本）、用水路を引き、そして作物を作り始める。

「『故・中村哲さん』とは、どんな方ですか？」と問われれば、「小さな巨人」という言葉が頭に浮かびます。

「平和・軍縮問題に関心を持っている、農業・食糧問題に関心を持っている、水・自然環境に関心を持っているという人（小生も含めて）は星の数ほどいます。ですが、故・中村さんの生き様を知り、足元にも及ばぬ存在であること」を自覚させられました。

平成28年8月に開催された「信濃川音楽祭 生誕25周年＆リバーバンク発足5周年記念『川・水・食糧』そして平和医師中村哲氏講演会in長岡」の実行委員会にお誘い頂きました。実行委員会が開催される度に、中村さん等のアフガンでの活動を紹介したDVDが放映されました。ハンセン病の治療医として赴いた中村さんが現地で患者や人々に向き合う中で、生きるためは水・食糧こそ必要と決意し、自らが先頭に立つて、手掘りの井戸を掘り（1千数100本）、用水路を引き、そして作物を作り始める。



スタッフ受付係（ホテルニューオータニ長岡 NC ホールのロビー）

紙宿る世界、素晴らしい地球。

紙のクリエイティブアドバイザー
北越コーポレーション代理店 各種特殊紙取扱店

株式会社 田村商店

■本社 〒940-2198 長岡市新産2丁目5-8
TEL(0258)46-9150 FAX(0258)46-7082
■新潟支社 〒950-8705 新潟市東区紫竹御新町2008-1
TEL(025)273-9161 FAX(025)271-8280
□URL <http://www.tamura1753.jp/>

エイシンカレッジグループ

厚生労働大臣指定介護福祉士養成施設／厚生労働大臣指定保育士養成施設
東北福祉大学 通達教育部 連携校／東京福祉大学 通達教育部 併修校

mew 長岡こども福祉カレッジ
〒940-0064 長岡市殿町1-1-32

jpas 日本ビジネス公務員専門学校
〒940-0064 長岡市殿町1-1-1

CH 厚生労働大臣指定 美容師養成施設
クレアヘアモード専門学校
〒940-0064 長岡市殿町1-5-9

Let's open the door of the new life.

REAL ESTATE SHOP
DOOR'S

ドアーズ株式会社 〒940-2103 長岡市古正寺町108-1
営業時間／9:00～18:30 物件情報はこちらにアクセス
毎日も営業しています www.doors-net.jp

国産米100%の
米菓づくりで
笑顔を届けます



「お米」のおいしさ創造企業
岩塙製菓株式会社

「どれだけ現地の人の心に寄り添えるか、
それが一番大事です」

中村哲医師（当社10周年記念式典にて）

中村先生の業績を讃え、心から哀悼の意を表します。 **TRUST**

JH

印刷・自費出版

株式会社 **北越時報社**

〒940-0044 長岡市住吉2丁目5番13号
TEL. 0258-32-1877 FAX. 0258-33-1437
E-mail:phj@seagreen.ocn.ne.jp

リバーバンク・リポート「R」第29号
令和2年4月1日 発行

表紙写真 羽賀康夫
編集 鈴木聖二・樋口栄治
発行人 樋口栄治
発行 一般社団法人地域ルネッサンス創造機構
シンクタンク・ザ・リバーバンク
〒940-0064 長岡市殿町1丁目5-1
エイシン殿町ビル
TEL.0258-86-7440

制作・印刷 株式会社北越時報社
印刷人 長谷川隆

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます



『ベシャワール会報・号外』
(令和元(2019)年12月25日発刊)

水は「方円に従う」だけでなく、時に舟を碎く水や、巨大な力を生み出す水蒸気など、その様相を大きく変える。医師でありながら、「命を守る」という一点で自在に生き、アフганの水利に身を捧げた中村氏の大きな力を思わせる。あの笑顔の底に博多のその筋の血が流れていることを小田さんの記事で知り、その「自在な強さ」の秘密の一端を知つたようにも思えた。

(S)

編集後記